

演題名：新型コロナウイルス感染症の予防と治療の実際

演者：長尾 美紀

京都大学大学院医学研究科 臨床病態検査学 教授

京都大学医学部附属病院 検査部・感染制御部 部長

感染症の対策は、適切な診断、治療、予防の 3 つが重要です。新型コロナウイルスの世界的大流行が始まってから今年で 3 年目になりますが、この間、検査・診断、治療、そして予防法が大きく進歩いたしました。

流行当初は本邦での遺伝子検査体制が十分ではなく、“必要なヒトに必要な検査を” という臨床検査の基本が揺らぐ状況であり、検査に携わるものとしては忸怩たる思いでした。その後、各検査会社や検査機関の努力により本邦の検査体制は大幅に改善しました。検査のキャパシティが増えたことで、大規模イベント前の検査や薬局での抗原検査キット提供など、従来の医療機関での診断学的検査から予防的・公衆衛生的検査へと検査に求められるものが大きく変わりました。また、治療法や予防法も進歩いたしました。抗体カクテル療法、内服薬が使用できるようになり、ワクチンのブースター接種が行われるようになったことで、医療提供体制の安定化に寄与しているものと思われま

す。本講演では検査・治療・予防の 3 つの観点から、コロナ禍 3 年目の医療現場についてお話ししたいと思います。